

令和8年第1回
福岡地区水道企業団議会定例会
条例予算特別委員会会議録
(令和8年1月29日開催・議案審査分)

福岡地区水道企業団議会

質疑・意見	答弁
<p>1. 議案審査関係</p> <p>○ 説明資料（その2）【概要】の33ページ以降の財政状況において、最後の41ページで、必要な資金は確保できているものの、物価上昇に伴う費用増により、中長期的な経営について検討とされているが、検討のスケジュール及び柱となる考え方について、示せる範囲で説明を求める。</p> <p>○ スケジュールは理解したが、37ページの収益的収支の単年度純損益の推移を見ると、今年度と来年度は赤字になっており、今後も収益は横ばいになるという前提では、内部留保資金等があっても、4～5年で枯渇するよう見える。 この点をどのような視点で改善していくのか、説明を求める。</p> <p>○ 今後の有識者会議で議論された持続可能な財政運営の内容を、なるべく早く議会にも明確に示すことを要望しておく。</p> <p>○ 海水淡水化センターについては、現在のような渇水時のために設置している。 日量最大5万m³の生産能力がある中で、現在、高圧RO膜設備の更新等のため、3万m³で運転しているが、今こそ使うべき海水淡水化施設が最大限使えないというのは本末転倒な気がしてならな</p>	<p>● まず、水道ビジョン2018については、基本的な経営方針や理念を示すものであり、現在、一部改訂を検討している。 長期財政収支見通し2023については、近年の物価高騰による費用の増加傾向、さらに地震対策や老朽化対策の必要性を踏まえ、見直しを検討している。 スケジュールについては、令和7年第2回定例会で第14次財政収支計画の振り返りを行ったが、今後、令和8年度に有識者会議を立ち上げ、議会や構成団体に内容を説明しながら、令和8年度中に長期財政収支見通し等の策定を考えている。</p> <p>● まずは将来的にどのような費用がどの程度かかるのかを全庁的に調査し、近年の赤字要因となった大型修繕の時期なども把握しながら、事業の平準化や先送り可能な事業、圧縮できる費用について検討していく。</p> <p>● 当センターには、高圧RO膜が5系統あり、1系統で日量1万m³を生産できる。 令和5年度から高圧RO膜設備の更新工事を行っており、現在工事中のため、日量3万m³で運転しているが、4万m³まで増量できないか調整を行って</p>

質疑・意見	答弁
<p>い。工夫して調整できる可能性について尋ねる。</p> <p>○ 主要事業の DX 導入・活用について、遠隔漏水監視システムの詳細な内容を尋ねる。</p> <p>○ 試験導入後、効果があれば本格的に導入していくのか。</p> <p>○ しっかり頑張ってもらいたい。</p> <p>2. 報告関係</p> <p>理事者から資料に基づき、「長期財政収支見通し 2027（仮称）」の策定及び「水道ビジョン 2018」の一部改訂について、AI による管路劣化予測の結果と今後の対応について、筑後川流域の水源状況について説明があった。</p> <p>なお、次のような質疑・意見があった。</p> <p>○ 筑後川流域の水源状況について、1月15日に当企業団では喝水対策本部を設置しており、福岡市でも昨日、喝水対策会議が設置されている。</p> <p>具体的なデータを示しながら、現在の喝水状況が非常に深刻であるということをも住民にどのように周知していくのか尋ねる。</p>	<p>いる。増量できる時期は現時点では示せないが、鋭意検討を進めている。</p> <p>● 管路の消火栓や仕切弁等に漏水センサーを設置して毎日監視し、AI による自動解析で漏水等を早期発見し、アラートを自動送信することで迅速な対応を可能にするシステムである。</p> <p>令和8年度に試験的に導入し、鉄道の軌道下を横断する管路など、漏水時の社会的影響が大きい箇所を中心に設置する予定である。</p> <p>● 試験導入の結果を踏まえ、費用対効果も含めて検討し、今後拡大していくかどうかを判断する。</p> <p>● 福岡都市圏の水の3分の1は筑後川から取水しており、貴重な水を大切に使い、節水に努めることは非常に重要であると認識している。</p> <p>現在、国や県、各構成団体等と連携し、ダム貯留水の温存や住民への節水の呼びかけ等に取り組んでいるところであり、住民への節水の呼びかけに当たっては、具体的なデータを示すことが非常に重要かつ有効であると認識し</p>

質疑・意見	答弁
<p>○ 過去にも大きな渇水を経験したが、今回の渇水は、近年の異常気象の影響を強く感じ、かなり深刻だと考えている。</p> <p>この機会に、データを示しながら住民に節水への理解と協力を求めていくことが重要であるため、各構成団体と連携し、より一層の周知を図るよう要望する。</p> <p>○ 渇水に関連して、先程の予算案に関する質問を補足する。</p> <p>海水淡水化センターについて、生産水量の日量3万m^3から4万m^3への増量を検討しているとのことだが、今回の渇水が梅雨時期まで続く場合、4万m^3では足りず、最大能力である5万m^3まで増量すべきではないかとも思う。</p> <p>更新工事に係る予算の費用対効果なども考える必要があると思うが、対応できる可能性はあるのか尋ねる。</p>	<p>ている。</p> <p>当企業団においても、ホームページ等でダムの貯水率などの基本的な情報を掲載しているほか、本日の資料にもあるように、例えば「洗車の際にお風呂の残り湯を使用すると210リットルの節水になる」といった、できるだけ具体的な事例を挙げながら、住民へ周知を行っている。</p> <p>また、各構成団体においても、それぞれの媒体を通じて節水啓発を行っており、今後も住民をはじめ関係者への情報提供に努めるとともに、国や県、各構成団体等と連携し、住民生活への影響が最小限となるよう対応していきたい。</p> <p>● 日量5万m^3トンへの増量について、高圧RO膜設備の更新工事においては、コンクリートの架台の上に膜があり、一旦膜を移設し、コンクリートを新しく作り直し、そこに膜を戻して、配管を接続し試運転を行うなどの工程を1系統ずつ行う必要があり、1系統の更新に約15か月を要する。</p> <p>工事を途中で中断しても、すぐに運転を再開するのは技術的に困難であるが、今後、渇水がさらに厳しくなる中で、海水淡水化センターがどのように貢献できるかについては、さまざまな</p>

質疑・意見	答弁
<p>○ 費用をかければすぐに元に戻せるものと考えていたが、技術的に難しくやむを得ないものと理解した。</p>	<p>角度から検討していきたい。</p>